

地震

地震が起きても慌てずに行動を。普段から地震発生時の行動をイメージしましょう。



地震発生時とるべき行動

- まずは、**
- ・落ち着いて、自分の身を守る
 - ・揺れがおさまってから、すばやく火の始末をする
 - ・ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する
- 次に、**
- ・火元を確認、出火していたら初期消火する
 - ・家族やまわりの人の安全を確認する
 - ・非常持出品を手近に用意する

地震発生時に…

屋外にいたら

路上

- ブロック塀や自動販売機等から離れる。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。
- 空き地や近くの公園等に避難する。



電車等の車内

- 将棋倒しや網棚からの落下物に注意し、つり革や手すりにしっかりつかまる。
- 座っているときは、足をふんばって上体を前かがみにし、カバン等で頭を保護する。
- 勝手に降車せず、乗務員の指示に従って落ち着いた行動を。

車を運転中

- ゆっくりスピードを落とし、道路の左側に停車する。
- 揺れがおさまるまで車外には出ず、カーラジオ等で情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証等の貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

- 高台へ避難し、津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまで沿岸部には近付かない。



屋内にいたら

エレベーターの中

- 大きな揺れを感じたら、すべての階のボタンを押し、停止した階で外に出る。
- 閉じ込められたときは、非常ボタンやインターホンで連絡を取り、救助を待つ。



家の中

- 大きな揺れを感じたら、テーブルの下に隠れ、身を守ることを最優先に。
- 無理をして火を消そうとしない。
- 裸足で歩きまわらない(ガラスの破片等でケガをする)。



集合住宅

- ドアや窓を開けて逃げ道を確保する。
- 避難にはエレベーターは絶対使わない。



デパート・スーパー

- ショーケースの転倒、商品の落下、ガラスの破片に注意。衣類や手荷物で頭を守る。
- 係員の指示に従う等落ち着いた行動を。



地震発生後の避難

地震発生!

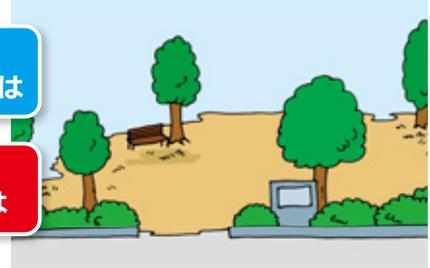
① 家にとどまる

自宅建物に火災や倒壊の危険がないときは、あえて避難をする必要はありません(状況に応じて適切に行動しましょう)。



② 近くの公園や広域避難場所へ

大地震による延焼火災やその他の危険から避難する場所です。市内の小中学校のグラウンドや公園などになっていることがほとんどです。

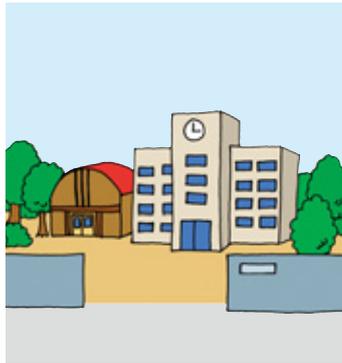


自宅の安全が確認できたときは

自宅に戻れないときは

③ 指定避難所

大災害により、住居等を失うなど継続して救助を必要とする場合や避難者が多数となった場合、避難生活を送る場所です。自治体ごとに指定されているので、ハザードマップなどで確認しましょう。



避難所の運営

住民と協力

市職員、施設管理者、避難住民が協力して運営します。要配慮者に十分配慮しましょう。

安否の確認

住民の安否確認や災害情報などの掲示板や伝言板を設置します。

飲料水の確保

浄水場や給水拠点の受水槽、または給水車などから必要に応じて水を確保しましょう。

Try!

巨大地震への対策

巨大地震が起こると、建物の倒壊により人命にかかわる大きな被害が発生し、また家具の転倒・落下等でケガをするだけでなく、逃げ道をふさがれて避難することが困難になります。日頃から、地震への備えを心がけましょう。



① 耐震診断・耐震改修

お住まいの耐震性を調べ、必要に応じて耐震補強工事をします。

② ガラス飛散防止フィルム

ガラスが割れても、危険なガラス片の飛散を低減します。

③ 開き戸ストッパー

吊り戸棚や食器棚からの物の落下を防止します。

④ 家具連結器具

分離した家具類を固定し、転倒を防止します。

⑤ 家具転倒防止器具

家具と天井の間に取りつけ、転倒を防止します。

⑥ ビン類落下防止具

扉のない家具から、物の落下を防止します。

避難指示

早急に避難が必要な場合に立ち退きを指示するもので、避難情報の中で最も危険レベルの高いときに発令します。